

令和元年度の具体的な学校経営目標・計画

令和2年2月 水島工業高等学校

学校経営目標	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価			
			達成状況	評価	達成状況	評価		
1 学習指導 (真の実力を身に付けさせる)	(1)授業を大切にさせ、基礎学力の定着を図る。	授業改善やICT機器の活用、公開授業への参加を通じて基礎学力の充実を図る。	公開授業に積極的に参加し、教育実践の共有化を図る。公開授業週間に1回は他の授業を見学するように促す。	5月の公開授業週間の際に積極的な授業見学を促した。参加者がまだ多くはないので、11月の第2回目では見学する教員の数をもっと増やしていきたい。	b	5月の公開授業週間の際に積極的な授業見学を促した。近年実施されていなかった11月にも第2回目を実施した。見学する教員の数をもっと増やしていきたい。	b	
		授業規律を徹底する。	ベル着・授業規律を守らせる。	全体的に落ち着いて授業に取り組んでいる。	b	全体的に落ち着いて授業に取り組めた。	b	
	(2)新しい学習指導要領の理念と内容を理解し、体験的な学習の一層の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	コミュニケーション能力の向上や体験を重視した補習体制を重視する。社会に開かれた指導体制を充実させる。	主体的・対話的で深い学びとなる補習を実践する。地域と連携し、専門的な外部指導者を積極的に活用する。	主体的・対話的で深い学びとなる補習を実践する。地域と連携し、専門的な外部指導者を積極的に活用する。	活動の結果、低学年や他学科の資格取得数が増加した。また全国工業高等学校協会特別表彰やおかやま未来の匠奨励賞等の形に表すことができた。	a	外部指導者の活用を促進した。他学科の危険物取扱者の受験数増加や技能検定合格につながった。技能検定成績優秀者として賞状6人、賞状2人、銅賞3人が受賞し、各種コンテストにつながった。	a
		アクティブラーニング型授業への取組を推進し、体験的な学習の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	ICT機器を利用した、研究発表や、課題の発表を行える授業展開を目指す。生徒は、人前で話す訓練をすることにより、コミュニケーション能力を身に付ける。	ICT機器を利用した、研究発表や、課題の発表を行える授業展開を目指す。生徒は、人前で話す訓練をすることにより、コミュニケーション能力を身に付ける。	毎年恒例の地元紹介のプレゼンをソフトウェア技術の授業で始めている。課題研究でも作業工程をipadに記録し年度末に向けて、作業をしている。	b	タブレットの活用に慣れている生徒も多く、学習の定着が図れている。生徒同士の学び合いも、軌道に乗ってきている。	a
	(3)家庭学習の習慣化を図る。	教科書の持ち帰りを徹底し、担任と教科担任で協力し、課題の完全提出を目指す。	教科書持ち帰り100%、単位不認定者0人。	教科書持ち帰り、課題完全提出とも若干できていない生徒もいるので、継続指導を行う。	b	教員間で連携を図っているが、課題提出は完全とは言えない。	b	
		全学年の成績不振者への1・2学期末指導を実施する。また、家庭学習時間調査を実施する。	H30年度は不認定科目が全学年で6(追認定)であった。今年度は学期末の指導等により昨年同様、不認定科目20以下を目指す。また、家庭学習時間調査を年2回実施し、生徒の動向を把握するとともに、大型連休等において適度な課題を各科にお願いする。	H30年度は不認定科目が全学年で6(追認定)であった。今年度は学期末の指導等により昨年同様、不認定科目20以下を目指す。また、家庭学習時間調査を年2回実施し、生徒の動向を把握するとともに、大型連休等において適度な課題を各科にお願いする。	1学期末での赤点総数は77で昨年より1増。1年生での赤点保持者が増加したことが原因である。終業式後に指導を行った。	b	2学期末での赤点総数は200で昨年より92増。3年生の赤点保持者が急増したことが原因である。終業式後に放送で全体指導を行った。さらに各教科担当にも必ず指導を行うようお願いした。最終的には昨年度並みに近づけた。	b
2 生活指導 (思いやりの心を育てる)	(1)気持ちの良いあいさつを励行し、整理・整頓・清掃に努め、基本的な生活習慣を確立する。	日常的な指導の中で、工業人として必要な挨拶、礼儀、マナーの徹底を行う。	「明るく」「元気よく」をモットーに掲げ、積極的に気持ちのよい挨拶、大きな声で返事をすることができるようになる。	授業だけでなく、職員室の出入りまで、挨拶、礼儀、マナーを教えており、意識の向上が図れた。	b	授業だけでなく、職員室の出入りまで、挨拶、礼儀、マナーを教えており、意識の向上が図れた。	b	
		地域貢献活動を通じて規範意識と社会性を身に付ける。あいさつの習慣を定着させる。	地域貢献活動を通じて礼儀や5Sの意識付けができる。活動中は挨拶や清掃を徹底する。	大きな声で挨拶し、地域の方と交流することで、生徒の自信につながっている。	b	挨拶の徹底など積極的に社会に貢献する規範意識と社会性を磨く機会になっている。	b	
		授業の開始・終了時に直立姿勢をとり、大きな声で気持ちの良い挨拶ができるようにする。	全クラスで100%実施。	ほぼ達成できているが、少し緩みが出てきた生徒もいるので、指導の徹底を図りたい。	b	ほぼ達成できているが、クラスによってあるいは号令をかける生徒によって差がある。	b	
	(2)生徒・保護者との信頼関係を一層密にし、きめ細かな指導を行う。	家庭との連絡を密にし、欠席・欠課・遅刻・早退を防ぐ。	無断欠席ゼロを目指す。	欠席が多い生徒が何名かいる。	b	概ね達成できている。昨年より増加傾向のクラスもある。欠席がかなり多い生徒が数名いる。	b	
		長欠調査や学校生活アンケート等を集計・確認し、担任やSC・SSWと連携して、生徒が抱えている問題の解決に向けて対応する。	昨年度に引き続き、緊急度の高い事例はアンケートの直後に、その他も1週間以内に対応を始める。毎月1回以上課題を聞き、長欠調査と日常の生徒情報を交換し、適切な支援を行う。	担任の協力でアンケートの直後に面談などの対応を始めることができた。毎月1回以上課題を聞き、長欠調査と日常の生徒情報を共有し、担任やSC・SSWと連携して適切な支援を行うことができた。	b	アンケートや長欠調査、日常の生徒情報を担任と共有し、ケース会議や課会議を月1回以上開き、対策を検討できた。また、SCやSSWとも連携して適切な支援を行うことができた。	b	
	(3)人権教育を充実し、安心して過ごせる学校づくりを一層推進する。	ケータイ安全教室を実施し、ソーシャルネットワーク上での言葉がどのように相手に伝わっているのか考えさせる。St o p i t の効果的な活用方法を考える。	言葉の取り扱い、個人情報の取り扱いが未熟と思える。SNSの利用法を理解させる。	ケータイ安全教室を4月に実施。式や集会で機会があればSNSの使用について再三注意してきた。まだまだネチケツができない生徒がおり、引き続き指導していき、トラブルが起きないようにしていきたい。St o p i t の活用については課題である。	c	始業式や終業式など、全体で話が出る場面で再三SNSの使用について話をしてきたが、実際の使用について理解不足で、トラブルの原因になっている。引き続き使用について粘り強く指導していきたい。	b	
		ホームルームを利用し、生徒の様子を把握し、人間関係を築かせる。	生活アンケートにおけるいじめ等の人間関係のトラブルがない。	数名、該当する生徒があったので、対応した。	c	信頼関係が築けていない生徒が見られる。	b	
	(4)特別支援教育の充実を図り、多様な特性に対応できる教育体制の強化を進める。	特別支援教育や合理的配慮の必要な生徒・保護者と面談し、クラス担任や教科担任と情報を共有する。授業や学校生活の様々な場面で、共通理解の下で適切な支援・配慮を行う。	新入生招集日に面談を行い、年度当初に情報を共有している。5月に教員研修会を開き、発達障害や聴覚障害等に関する理解を深め、具体的な合理的配慮の在り方について学び、実践する。	5月の教員研修会では聴覚障害に関する理解を深め、具体的な合理的配慮の在り方について学ぶことができた。	b	今年度は特に聴覚障害に関する理解を深め、クラス担任、教科担任が授業や学校生活の様々な場面で合理的配慮を行った。今後も生徒のニーズを確認しながら改善を図っていきたい。	b	
		特別支援教育関連の蔵書を充実させる。	教職員用コーナーを設置し、障害関連の蔵書を整備する。	購入を済ませたところである。	a	購入を済ませ、整備できた。	a	
	3 進路指導 (目標を明確にさせる)	(1)インターンシップを推進し、キャリア教育の充実を図る。	企業にインターンシップ可能な会社の確保に努める。	企業にインターンシップ先についての理解を求め、幅広いインターンシップ先の確保を目指す。	夏季は30社、60名が参加できた。(H30 24社、45名)	a	学年を上げてしっかり取り組んでもらったおかげで多くの生徒の参加があった。	a
(2)積極的に求人開拓を行い、生徒の自己実現を支援する。			新規求人開拓に加え、今まで培った企業との信頼関係を大切にします。	生徒全員が希望の就職地域に就職できるよう、特に希望の多い学校周辺(倉敷、水島)の求人確保に努める。	人手不足を受けて求人数は昨年度以上となり、直接訪問される企業も増えたため、その対応に追われている状況である。	a	各企業の求人数が増えたことにより生徒には有利な状況であったが、応募先企業は減少した。	b
(3)進学指導体制の充実を図る。		補習の充実により、進学を目指した生徒の学力向上を図る。	教科の協力もあって、補習も定着した。今年も継続して行う。	1学期1年17名、2年7名、3年3名が参加し、しっかりと学習に取り組んでいる。	b	補習の取組は定着しており一定の効果上げている。今後は、入試方法の変更についての情報収集につとめたい。	b	

4	魅力ある工業高校づくり (生き抜く力を育む)	(1)工業の各分野の学習において、「ものづくり」の意識を高める取組を重視する。	課題研究等のものづくりを行う中で、自ら考え想像し完成させる過程におけるものづくりの大変さ、達成感を実感させる。	指示されたことはできる。生徒自らが計画・実行・評価・改善を実行する。	課題研究の各班とも熱心に取り組めている。	b	多くの生徒が自ら考え行動し、ハード、ソフトともに良いものができたが、若干指示待ちの生徒もいる。	b	
			ものづくりの活動を、ホームページで紹介し、本校の生徒のみではなく、保護者や中学生にもアピールしていき、生徒のモチベーションを上げていく。	NEW MEDIAの活動や物作りコンテストに取り組む生徒の活動をホームページ上で紹介し、学校内外にアピールしていく。	ものづくりコンテストでの活躍を紹介できた。今後は課題研究の成果を掲載していきたい。	b	60周年に向け、学校の活動をさらに積極的にアピールしていく必要がある。	b	
		(2)ものづくりを通して、エネルギー環境教育をさらに発展させる。	学校の特色を生かした地域貢献活動を推進する。	エネルギー環境教育に係る地域貢献活動を優先的に取り入れて地域に貢献する。	計画どおりに実施中である。特色を生かしたのものづくりにつなげたい。	b	今年度も積極的に地域の環境フェスティバルや環境学習等に参加した。	b	今年度も積極的に地域の環境フェスティバルや環境学習等に参加した。
			BDF、燃料電池、新素材の技術を活用して環境教育を推進する。	環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせる。	発表などを積極的に行っていった。	a	環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせることができた。	a	環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせることができた。
		(3)資格・検定の取得を一層推進する。	資格取得を通じて本物を目指す姿勢を養い、健康で意欲的な実践的技術者を育成する。	各種技術顕彰取得者を昨年度より増加させる。地域の進路先と連携した指導体制を確立する。(昨年度工業教育技術顕彰94人、職業教育技術顕彰前期12人後期11人、ジュニアマイスター前期6人後期54人)	技能検定期前合格者33人(昨年度28人)、ジュニアマイスター顕彰前期取得者16人(昨年度14人)であった。	b	各種顕彰制度は今年度も増加傾向である。多くの申請を計画している。	B	各種顕彰制度は今年度も増加傾向である。多くの申請を計画している。
		(4)特別活動の活性化を進める。	文化祭や三斎市など、校外でのイベントを大切に。また、生徒の主体性やコミュニケーション能力、発案力の育成を図る活動を増やしていく。	様々なイベントに参加している。継続して顧問と連携していく。	文化祭に向けた準備においては、文化委員や文化部長など代表生徒だけではなく、一人一人が責任をもってチームとして活動していくことが課題として挙げられる。	b	文化祭においては、準備から当日の運営まで一部の生徒に負担が集中しすぎたり、教員に頼りすぎたりするクラスが多く見られた。文化委員の増員など生徒がより主体的に活動することができる環境作りが次年度以降の課題である。	b	文化祭においては、準備から当日の運営まで一部の生徒に負担が集中しすぎたり、教員に頼りすぎたりするクラスが多く見られた。文化委員の増員など生徒がより主体的に活動することができる環境作りが次年度以降の課題である。
(5)開校60周年記念事業に向けた準備開始と、MECIAプロジェクトの具体的取組を進める。	次期メシアプロジェクトの方向性を探る。	新エネルギーと新素材の活用を次のプロジェクトに活かす。	スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業を念頭に廃プラスチックの有効利用を検討中である。	b	スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業を念頭に、廃プラスチックの有効利用を検討中である。	b	スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業を念頭に、廃プラスチックの有効利用を検討中である。		
	水工らしさとは何か、教員間で話し合いを持ち実現可能な案を絞り込んでゆく。	方向性が定まり、具体的な内容に着手する。	情報技術科として何ができるかを科会で検討した。	b	環境を考えたものづくりに決定した中で、情報技術科の特色を活かす内容を検討した。	b	環境を考えたものづくりに決定した中で、情報技術科の特色を活かす内容を検討した。		
5	開かれた学校づくり (社会に貢献する)	(1)授業公開、授業評価等を活用し、授業改善を図る。	保護者対象の公開授業週間、教員対象の公開授業週間を実施する。また、授業評価アンケートを実施し授業改善の機会を設ける。	保護者向け公開授業及び公開授業週間を年2回設定し、教員同士の授業参観を促進する。合計15日間以上を設定する。	1学期の公開授業週間には95名の保護者の方に来ていただいた。2学期にも多数の方に参観してもらえるように周知したい。	b	1学期の公開授業週間には95名、2学期には23名の保護者の方に来ていただいた。今後多くの保護者の方に参観してもらるように周知したい。	b	
		(2)中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の充実を図る。	中学生保護者対象説明会を年2回開催する。また、学校案内やオープンスクール用チラシの改訂を行う。ホームページの更新を行い、積極的に情報発信を行う。	R2年入試での志望者380名(募集定員の1.2倍)、オープンスクールでの参加者2回合計千人以上を目指す。学校案内とチラシの全面的な改訂を行う。	学校案内の全面改訂までは至っていないが表紙を大きく変更した。全面的な改訂は来年度に実施する。チラシについてはほぼ全面改訂した。夏のOSでは生徒保護者合わせて682名の参加があった。昨年より40名増である。秋のOSに向けて準備中である。	b	学校案内の表紙を大きく変更した。全面的な改訂は来年度に実施する。チラシについてはほぼ全面改訂した。夏のOSでは生徒保護者合わせて682名、秋のOSでは525名、合わせて1207名の参加があった。秋は他校と日程が重なっていたにも関わらず、たくさんの方に参加してもらえた。	B	学校案内の表紙を大きく変更した。全面的な改訂は来年度に実施する。チラシについてはほぼ全面改訂した。夏のOSでは生徒保護者合わせて682名、秋のOSでは525名、合わせて1207名の参加があった。秋は他校と日程が重なっていたにも関わらず、たくさんの方に参加してもらえた。
			中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の充実を図る。	ホームページを通じて各専門科の魅力・特徴を発信し、活性化を図る。	教科内容など、情報技術科のページは充実させている。各科の情報管理室の先生方も、アピールをお願いしたい。	b	ホームページの更新をできるだけ早くしていくことを心がけた。各科の特徴を紹介していくには、まだまだ各科の協力が必要だと思う。	b	ホームページの更新をできるだけ早くしていくことを心がけた。各科の特徴を紹介していくには、まだまだ各科の協力が必要だと思う。
		(3)社会貢献活動に積極的に取り組み、地域との連携を一層密にする。	倉敷町家トラスト等と連携した活動を通して、魅力ある専門科づくりに取り組む。	町家の修理等を行う。	これから修理再生する町家が一軒あり、今後協力できることから始めていく予定である。	c	連携先の事情もあり、修理再生予定の町家の下見しかなかった。	c	連携先の事情もあり、修理再生予定の町家の下見しかなかった。
6	安全な教育環境づくり (危険予知能力を育成する)	(1)JS運動を推進し、安全教育の徹底を図る。	交通査察の日時や場所・回数などを検討し、校外指導を充実する。	自動車や、自転車同士など接触事故が起きている。昨年度より事故を減らしていく。	自転車の交通事故は10件報告されている。昨年よりハイペースである。啓発活動を強化、継続する。	c	自転車の交通事故は17件報告あり、多くは車との接触。昨年とほぼ同数であった。	b	
			安全点検を毎月実施し、修理・改修が必要な箇所を明確にし、破損箇所0を目指す。拾得物件の減少を目指す。	安全点検を、5月から毎月10日に実施し、修理・改修が必要な箇所を把握し、破損箇所がない。拾得物件が50件以下となる。	安全点検や修繕要求票により、修理・改修を適宜行っている。拾得物件は20件ほどである。	b	安全点検や修繕要求票により、修理・改修を適宜行っており、破損箇所はない。拾得物件は50件ほどである。	b	
		(2)危機管理・防災教育を徹底する。	防災訓練や防災LHRを通して、防災に関する知識を深め、危険予測に基づいた判断力や行動力を養う。	防災訓練を年2回実施、抜き打ち地震訓練、防災LHRを実施し、防災意識の向上が認められる。	地震対応の、避難訓練と抜き打ち訓練を行った。避難訓練では、意識不足のクラスが複数あった。	b	防災教育を計画どおりに実施し、防災意識の向上が認められた。	b	防災教育を計画どおりに実施し、防災意識の向上が認められた。
			アレルギーのある生徒への対応についての講習会を実施する。	アレルギーのある生徒への緊急時対応についての講習会を年1回実施する。	4月当初に職員会議において1回実施、10月に場面設定をして、2回目を実施予定。	b	10月17日に事例を用いたアレルギー研修会を実施。研修の振り返りをグループごとに行い、充実した研修となった。	b	10月17日に事例を用いたアレルギー研修会を実施。研修の振り返りをグループごとに行い、充実した研修となった。